



TITLE:

来る十月1日の皆既日食(續)

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. 来る十月1日の皆既日食(續). 天界 1940, 20(227): 149-150

ISSUE DATE:

1940-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167954>

RIGHT:

来る十月1日の皆既日食（續）

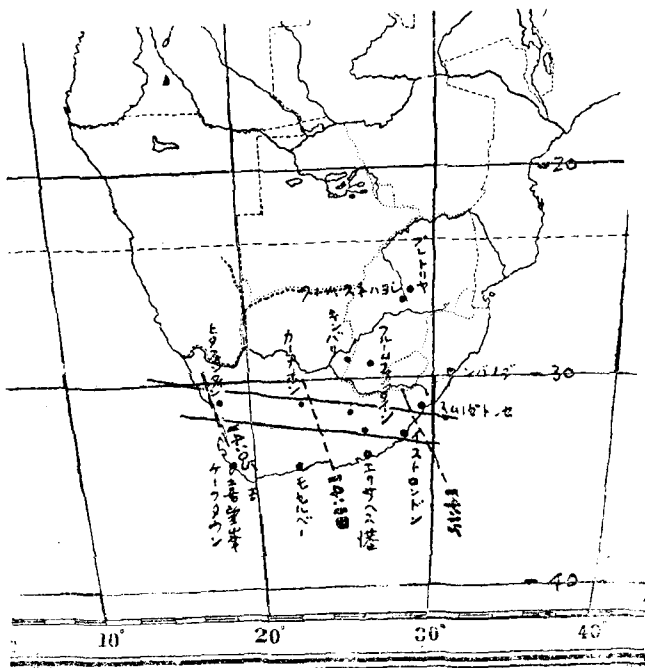
山 本 一 清

(5)

来る 1940 年十月1日に南太西洋の兩側に於いて待望の皆既日食が起る事は、さきに“天界”224號に記したところであつて、殊に南米ブラジル方面の日食地圖を載せた次第であるが、こゝに記事の完全を期するため、南アフリカ方面の日食圖も、簡單ながら、載せることにする。日食皆既の地方時刻や、太陽の高度や皆既時間などだけから考へると、南アフリカよりも、南米ブラジルの方が遙かにコンディションが良いのであるが、しかし、前にも記した通り、南アフリカの方が天気は大丈夫といふ風に廣く知られてゐるから、歐米人の大多數はやはり、アフリカの方へ行くに違ひないと思はれる。それに、南アフリカには既に數年前から、幾つもの大天文臺が建設され、従つて、多くの優れた天文學者たちが定住してゐるのであるから、よそから行かないでも、此等の學者や、其の土地のアマチュアたちが大に活躍するだろう。従つて、日食の前後に、世界各地へ飛ぶニ

ウスも、可なり派手なものがアフリカから出るだろうと思ふ。こんなわけであるから、一般の人々も、この日食に関する南アフリカの地理的事状を知つて置くことは必要であらう。

前にも記した通り、又、この地圖にも明らかな通り、アフリカの南端に近い部分を、西から



東へ、皆既線は通過する。この皆既線の少しく南にはケープ天文臺があり、又此の線の北側にはブルームフオンタイン、ジョハネスバーク、プレトリア等の都市があつて、皆それぞれ天文臺があるのであるが、何れも、惜しいことに、皆既線から外れてゐるから、観測のために、わざわざ數百キロの旅行をしなければならないことは、公平な天の配割である。しかし、此のあたりは、東西にも、南北にも、鐵道や自動車路や、海上の航路も、皆發達してゐるから、旅行や、器械の運搬については、南米のブラジルよりも便利であらう。

“龍 の 歳”

春はまづ日本帝國に明けて、待望の二千六百年の元朝となつた。▲神武天皇御即位の日は今では二月11日となつてゐるが、當時の曆によれば辛酉年正月庚辰朔となつてゐて、まさに一月元旦である。朔の名よりすれば今日元旦が御即位の日ともいはれる。その日は庚辰で、今年の庚辰と奇しくも符合するはいよいよめでたい。▲辰の年とあつて、これを龍と解して、いろいろ縁起を祝ふが、元來辰は支那では「季節を定めるために観測する標準の星」といふ意味で、日月星辰の辰だ。▲殷の時代、仲夏、王五月の節を正す目標となつたのは蝎座の一等星“大火”であつたので、遂に大火が辰の名を獨占した。秀吉が大閼を、光圀が黃門を獨占したやうなものだ。▲この辰を龍の義にとつたのは、故新城博士によると、大火附近の星象が一種の動物を假想せしめるものがあつて、これに龍と名づけたのである。▲十一月の目標なるオリオン附近の星象が斧鉞の形に見えるので、鉞と同義の戌をもつて、これに名づけ、さらに十一月は狩獵月であるからといふので、犬を聯想し、戌を犬としたのと似てゐる。▲十二支を動物に見たてゐるのは お伽噺と見れば面白いが、實はたはいもないものである。▲所で問題の龍だが、之はもとより蛇でもない、鰐でもない。「角は鹿に、頭は駝に、眼は鬼に、體は蛇に、腹は蜃に、鱗は魚に、爪は鷹に、掌は虎に、耳は牛に」似たものだ。▲説文には『龍は鱗虫の長にして、能く出、能く明、能く細、能く巨、能く知、能く長、春分にして天に登り秋分にして淵に潛む』とある。▲何れにしても、想像を絶したもので、本來天界に屬するものらしい。▲随つて、神聖なものとせられ、九五の位に関する言葉となる。▲更に注意すべきは、龍の頸には大きな寶珠のあることだ。▲今年をもつて龍に配するとすれば、東亞新秩序の建設はそれ龍の頸の寶珠か。▲何れにせよ二千六百年を祝福する今年を、さらに後世をして記念せしめれば、龍の年の名によさはしい。(元旦の大毎紙より)